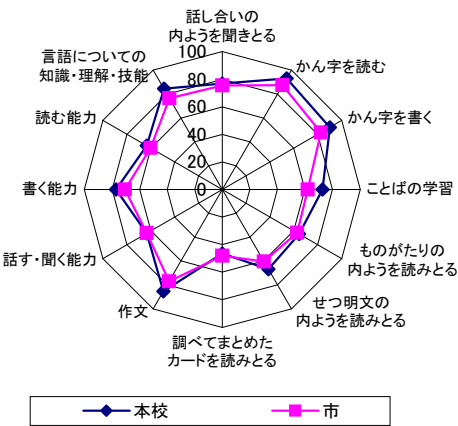


宇都宮市立西原小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	76.7	75.4
	かん字を読む	93.0	87.2
	かん字を書く	90.1	82.5
	ことばの学習	72.7	62.0
	ものがたりの内ようを読みとる	64.3	62.5
	せつ明文の内ようを読みとる	66.7	60.3
	調べてまとめたカードを読みとる	46.5	48.0
	作文	85.2	76.8
観点別	話す・聞く能力	63.4	63.0
	書く能力	77.0	70.6
	読む能力	63.3	60.2
	言語についての知識・理解・技能	84.5	76.3



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	「話の中心に気をつけて聞くこと」や「話し手の考えの共通点を聞き取り話すこと」に関して、市の平均とほぼ同じ結果が出た。「話し方の工夫」について聞き取る力は、市よりも5%高い正答率であった。	話し手の考えを聞き取り、それを自分の言葉で表現する力を育成する必要がある。そのために「聞く」から「聴く」への転換を図り、学び合いのグループ学習を実践していく中でお互いに意見を交流し合い、まとめていくという学習活動を展開していく。
かん字	「第2学年配当漢字を読む」ことが、市の平均より10%ほど高い正答率である。「第3学年配当漢字」もほぼ100%近い数値を示している。「漢字を書く」についても平均して90%の正答率を誇っており、総じて「漢字の読み・書き」とともに高い正答率を示している。	「漢字の読み」に比べると「漢字の書き」が少し劣るので、今後は、書き取りも100%の定着率を目指した取り組みを行っていく。具体的には、3年生まための漢字学習を朝の学習等に位置づけ、既習漢字の定着を目指した取り組みを家庭と連携しながら実践していく。
ことばの学習	国語辞典の使い方に関しては、市よりも18%も高い数値を示している。常日頃からの辞典活用指導が功を奏したと言えよう。ローマ字に関しても、ワークシートや家庭学習などで反復練習を行ったことにより、市よりも15%の高い結果が得られた。	国語辞典の使い方は市よりも高い数値を示しているものの正答率だけで考えると60%程度なので、今後も普段の学習指導の中に国語辞典の活用を位置づけ、語彙量を増やしていくような支援を継続していく。
ものがたりの内ようを読みとる	「場面の移り変わりを読み取る」ことが、市よりも唯一落ち込んでいる項目である。「登場人物の気持ち」や「文章のあらすじをまとめる」ことは、市よりも高い数値を示している。	「場面の移り変わり」を読み取るために場面ごとのキーワードに着目させ、文章全体の中での場面の役割を考えさせていく。また、物語の基本的な構成「起承転結」についても説明を加えていくことで、文学的作品の読解力を高めていけるよう支援をしていく。
せつ明文の内ようを読みとる	「細かい点に注意して読む」ことや「文と文のつながりを考えて読む」ことなど、説明的な文章の基本的な読み取り方は身に付いている。「要点のとらえ方」も、市よりも15%高い正答率を示しているが、到達度は、48.8%と低い数値である。	説明的な文章の読み取りに関しては、3年生で初出の「要点」をまとめる活動がポイントとなる。説明的な文章をまとめるためには、読書指導が欠かせない。児童が普段読んでいる物語文の読書以外に伝記や自然科学的な読み物にも数多くふれさせ、いろいろな作品を読むことを通して、筆者の意図するところに気付かせていく。
調べてまとめたカードを読みとる	今回の項目の中で唯一、市の平均より下回ったのが、「調べてまとめたカードを読みとる」の項目である。市の平均よりも1.5%低く、正答率も46.5%であった。特に「資料を読み取ったうえで適切な言葉づかいで話すことができる」が、23.3%と低くなっている。	「調べてまとめたカードを読みとる」の項目が低い点について考察してみると、まず資料を正しく読み取れていないことが挙げられる。また、適切な言葉づかいで話すことがよく理解できていないことがわかる。以上の点から、資料の読み取り方と読み取った資料をもとに自分の考えを表現することについて、演習問題を行いながら力を育てていく。
作文	作文について、市よりも高い平均値である。「がんばっていることを書く」項目に関しては、100%の正答率が示されている。しかし、二段落構成の文章を書くことについては、65.1%と市より10%以上の高い数値であるが、まだまだ定着率が低いといえる。	「二段落構成」については、具体的な作文指導の場面で支援していく。また、作文を書く機会を増やすことで、文章表現に必要な語彙量や表現力を育てていく。具体的には、活動したことを記録として残していくように普段から、書く習慣を形成していく。